

## 小野篁 研究発表会概要

### 「小野篁の実像と伝説」

#### 小野氏について

小野氏は、古代豪族和邇氏の分流であり、滋賀県の小野町辺りから途中峠を經由して、大原、上高野までを本拠地とした。遣隋使小野妹子が重用されたことから中堅貴族の地位を確保し、奈良時代、平安時代前期には、**多数の外交関係の官吏(漢詩、漢文に堪能)**を輩出した。藤原氏や皇族系氏族が勢力を伸ばす中、公卿にはなかなかならなかったが、篁の父、**小野峯守が嵯峨天皇の側近として参議に登用された(嵯峨朝で女官として重用された小野石子の関与もあったのではないか(豊田の推測))**。また峯守は漢詩人としても著名であった。

別紙2 小野氏一覧			
小野 大樹	5世紀末頃?		雄略天皇の命により播磨の文石小麻呂を討伐
小野 妹子(おのの いもこ)	生没年不詳	大徳	607~609 遣隋使として二度隋へ
小野 毛人(おのの えみこ)	?~677	小納言	崇道神社の裏山から毛人の墓誌が発見され、国宝に指定
小野 毛野(おのの けぬ)	?~714	中納言従三位	695 遣新羅使 700 筑紫大弐 702 参議 708 中納言従三位兼中務卿
小野 馬養(おのの うまかい)	生没年不詳	正五位下	708 造平城京司次官 718 遣新羅大使
小野 広人(おのの ひろと)	生没年不詳	従五位下	708 造平城京司次官
小野 老(おの の おゆ)	?~737	従四位下	728 大宰少弐(大伴旅人)の梅花の宴に参加 735大宰大弐
小野 牛養(おのの うしかい)	?~739	従四位下	724 鎮守将軍 729 皇后宮大夫(光明皇后)
小野 綱手(おのの つなて)	生没年不詳	従五位下	743 内蔵頭 746 上野守
小野 重人(おのの あずまひと)	?~757	従五位上	741 流罪(伊豆国三島 藤原広嗣の乱連座) 747 治部少輔 754 備前守 757 (橘奈良麻呂の乱連座杖下死)
小野 田守(おのの たもり)	生没年不詳	従五位上	749 大宰少弐 753 遣新羅大使 754 大宰少弐 758 遣渤海大使
小野 小賢(おのの おにえ)	生没年不詳	正五位下	770大宰少弐 771摂津大夫
小野 竹良(おのの つくら)	?~769	従四位下	出羽守 763 左中弁 768年 右京大夫
小野 石根(おのの いわね)	?~778	従五位上	774 左中弁 776 遣唐副使(大使代行)778唐からの帰路難破し死亡
小野 滋野(おのの しげの)	生没年不詳	従五位下	775 遣唐判官 780 豊前守
小野 石子(おのの いわこ)	746~816	正三位	典侍(女官) 816嵯峨天皇が石子の長岡の邸宅に行幸正三位を授ける
小野 永見(おのの ながみ)	生没年不詳	従五位下	陸奥介 征夷副将軍
小野 岑守(おのの みねもり)	778~830	参議従四位上	806 春宮少進(春宮・賀美能親王) 815 陸奥守 821 皇后宮大夫(皇后・橘嘉智子) 822 参議兼大宰大弐
小野 野主(おのの のぬし)	?~837	正四位上	810 右中弁 811 左中弁 812 兼摂津守
小野 石雄(おのの いわお)	生没年不詳	従五位上	813征夷軍 822 従五位下 829 従五位上
小野 濹雄(おの の たきお)	生没年不詳	正五位下	出羽守
小野 篁(おのの たかむら)	802~853	参議従三位	832 大宰少弐 834 遣唐副使 836 正五位下 刑部大輔 838 遠流(隠岐国) 位記没収 840 召還 841 復位 正五位下 刑部大輔 842 東宮学士(皇太子・道康親王) 845 蔵人頭 846 左中弁 847 参議
小野 恒柯(おのの つねえだ)	808~860	従五位上	841 存問渤海客使 849見大宰少弐 854 播磨守
小野 春枝(おのの はるえだ)	生没年不詳	従五位上	856 鎮守将軍 863 兼上野権介 870 陸奥権守
小野 春風(おのの はるかぜ)	生没年不詳	正五位下	864武蔵介878鎮守府将軍兼相模権介890陸奥権守891讃岐権守
小野 葛城(おの の くずお)	生没年不詳	?	大宰大弐
小野 好古(おのの よしふる)	884~968	参議従三位	917春宮権少進(春宮・保明親王) 940 追捕凶賊使 藤原純友軍を博多津にて撃退 942左中弁 945大宰大弐 947参議
小野 道風(おのの どうふう)	894~967	正四位下	947次侍従 960 内蔵権頭
小野 小町(おのの こまち)	生没年不詳		六歌仙 三十六歌仙

#### 小野篁(802~852年)について

**822年文章生試に及第** 824年 **巡察彈正** 825年 **彈正少忠** 828年 大内記 830年 式部少丞 832年 従五位下 大宰少弐(遥任) 833年東宮学士(皇太子・恒貞親王) **彈正少弐** 833年『**令義解**』(りょうのぎげ)完成 篁は編纂者の一人 序を書く 834年遣唐副使に任命 836~837年 二度に渡り、遣唐使出発するも、台風や船の故障により渡航失敗 **838年 遣唐大使藤原常嗣の乗る予定の第一船は水漏れをおこした、勅命があり、副使篁の乗る予定の第二船と交換することとなった。篁はこれに強く抗議し、病を理由に下船。** 839年(37) 官職、位階を取り上げられ、**隠岐へ遠流** 840年 特赦 都に召喚 841年 正五位下に復帰 **刑部大輔** 842年 陸奥太守(遥任) 東宮学士(道康親王) 兼式部少輔 845年 従四位下 蔵人頭 846年 権左中弁 **善愷(ぜんがい)**訴訟事件に関わる 846年左中弁 848年 参議 兼**彈正大弐** 左大弁兼信濃守 兼勘解由長官 849年 従四位上 850年 正四位下 852年 病床で叙従三位 病没

篁は、父峯守が参議に昇進していたことや、文章生試に及第し漢詩文に優れていたことから順調に昇進するが、渡航船を巡って遣唐大使、朝廷に強く抗議し渡海せず、結果隠岐へ遠流。(小野一族の岩根が、かつて遣唐使として難破し死亡した事、その当時仮病で大使を降りたと噂された佐伯今毛人に対する処置(一時職を解かれ謹慎)が篁の脳裏にあったのではないか(豊田推測))。その後、許されてから再び昇進を重ね、参議にまでなる。

篁の経歴・事跡で注目すべきところの一つは、司法関連の職(彈正台)や事業(令義解編纂)、事件(善愷訴訟事件)に関わっており、また当時、朝廷でもその道の権威として認識されていたことです(墓伝でも、善愷訴訟事件についての記述が一番多い(遣唐使ボイコットよりも))。

→ 後に地獄の冥官伝説が生まれる下地ではないか(豊田推測)

#### 小野篁纏め

- ① 父、峯守との関係から、嵯峨天皇が目に掛けていた(周りの人たちはそう感じていた)
- ② 文書(漢文)作成能力、漢詩、書、に秀でていた
- ③ 司法関係(警察・検察・裁判)についても強かった
- ④ 筋を通す性格であった
- ⑤ 弁がたった
- ⑥ 非常に背が高く偉丈夫であった
- ⑦ 遠島からの復活を成しえた
- ⑧ 親孝行であった

#### 小野篁の伝説について

852年に篁が亡くなってから約250年後、篁の伝説が文献に表れる(初見は江談抄)。

この250年の空白期間を如何にして篁の話が伝わったのか？ 私は、漢詩文の達人としての篁の逸話が漢学者(当時は一流の文化人)の間で語り伝えられた(本当の話を基に増幅・創作されて)と推測しています。また多くの伝説の出発点となった江談抄(院政期の大漢学者、大江匡房の話を纏めた書物)が、篁伝説が広まっていくきっかけになったと思っています。

これ以降、篁伝説は時代時代できまざまに拡充、変化していきます。現代まで伝わっている大きな要因は、1100年代後半以降、矢田地蔵縁起などで寺社を通じて民衆に広まり、やがて六道詣りなどの宗教行事、風俗になったことが大きいと推測します。

小野篁の六国史で書かれた史実はともかく、各時代で描かれた篁伝説が現代まで伝わったことも史実です。それらを通じて各時代の情景を感じることも楽しいと私は思っています。

(別紙3) 小野篁伝説一覧

	地獄	冥官篁	詩人篁	機知篁	人間篁	その他篁
853年篁 死去						
900年代後半	985年 源信 往生要集					
1000年代前半	1052年 末法元年					
1000年代後半					本朝文粹 篁 藤原三守娘への 求婚書	
1100年代前半		江談抄 公忠(きんただ)の弁たちまちに 幅減(とんめつ)するも蘇生し、 にはかに参内する事	江談抄 闇を閉じて唯聞く朝 春の鼓、楼に登りて 遙かに望む往來の船	江談抄 嵯峨天皇の御時、 落首多々なる事	江談抄 暗(そら)に野人と作 (な)す天の与へし性	今昔物語 愛宕寺に鐘を鐫る 語
		江談抄 野篁(やこう)ならびに高藤卿、 百鬼夜行(ひゃっきやぎょう)に 遇ふ事	江談抄 野に着いては展(の) べ舗(し)く紅錦繡(こ うきんしょう)		今昔物語 小野篁、隠岐の国に流 さるる時和歌を読む語	
		江談抄 野篁は閻魔庁の 第二の冥官為る事				
		今昔物語 小野篁、情に依り西三条の大臣 を助くる語				
		*今昔物語 尊勝陀羅尼の験力に依りて、 鬼ノ難を遁れたる語				
1100年代後半	扶桑略記・天神縁起 道賢上人の冥途体験 道真 醍醐天皇 時平が登場				篁物語 一話 篁と異母妹 との恋物語 二話 藤原三守娘との結婚 妹の幽霊が出てくる	
1200年代前半	矢田地蔵縁起 満米上人の 地獄めぐり	古事談 公忠蘇生の事 江談抄に同じ	古事談 白樂天、遣唐使小野 篁を待つ事	宇治拾遺物語 小野篁広才の事 内裏に札		*古事談 珍皇寺の鐘の事
	宇治拾遺物語 廣貴炎魔王宮へ召る 事	矢田地蔵縁起 満米上人の地獄めぐり		世継物語 嵯峨の御門の御時 に、内裏に札を立 てたりけるに		
1200年代後半			撰集抄 篁任宰相事(詩)	十訓抄 嵯峨帝の御時、 「無悪善」と書き ける落首ありけり	十訓抄 小野篁三守の大臣にそ の娘を望みける文を持 て	
			撰集抄 野相公再日詩事			
1300年代前半		元亨釈書 矢田地蔵縁起に同じ				
1400年代		三国伝記 義父右大臣 藤原三守を地獄よ り助ける		東齋隨筆 嵯峨帝の御時、無 惡善とかける落首 有りけり		
1500年代						鎌倉大草紙 小野篁 足利学校 を創建
1600年代後半		本朝列仙伝 篁 神を飛ばして瑛羅王宮にい たる 八坂の郷六道 篁は破軍 星化身との記述有り			本朝二十四孝 孝子伝 足利学校 雲林院 記述有り	小野篁歌字尽 江戸時代の漢字の 学習書
1700年代後半		山東京伝 照子浄願梨 (かがみのじょうはり) 篁の地獄巡り				
1800年代前半					和漢廿四孝 孝子伝 母の為に唐へ渡らず	
1800年代後半					日本忠孝伝 孝子伝 母の為に唐へ渡らず	
					月百姿 孝子乃月 夜半まで薪拾いする篁	